

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

仲間と共有する／社会福祉法人南大阪福祉協会 ひかり保育園

植物など興味の対象に関わる中で、子どもの感じたこと、気付いたこと、考えたことなどをどのように受け止めて、みんなで共有していますか？

子どもたちが、素朴な疑問・不思議・気付き・発見を絵や言葉に表現したことをきっかけに、「手作り図鑑」作りに繋がった実践をご紹介します。



○ 「手作り図鑑」～稲・米～／5歳児

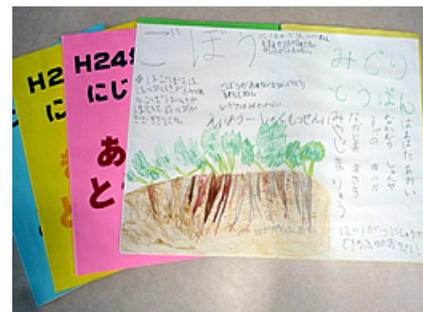
※画像クリックで拡大

籾の選別～稲刈り～精米と長期に亘り米作りをしてきた5歳児。

米作りの中で気付いたこと、感じたこと、考えたこと、分かったことなどをみんなで「手作り図鑑」に記録した。

「手作り図鑑」は、子どもたちが農園や地域で観察した農作物や虫について、絵や自分たちの感想、図鑑や月刊誌から知り得た情報などを載せたものである。

自由画帳に観察記録のようなものを遊びとして書いていた子どもから始まり、クラス全体の活動へと繋がった。



✿ 1.みどりグループ

「はっぱはひらべったかった」

「おこめはたんすいかぶつ」

「はっぱがながくなってよかった」

「おおきくなってよかった」

「そだてたときはちいさかったのに、こんなにおおきくなった」



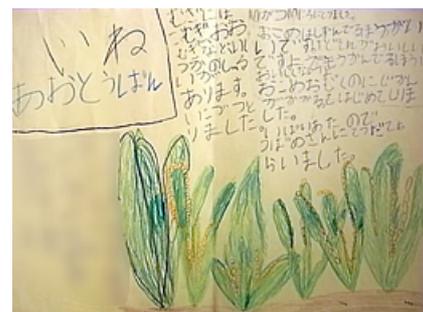
✿ 2.あおグループ

「おこめはしずんでるほうがいいです」

「うかんでるほうはおいしくないよ」

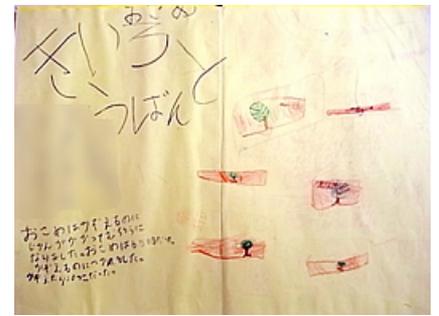
「おこめをむくのじかんがかかるって始めてしました」

「いっぱいあったのでつばめさん（4歳児）にてつだってもらいました」



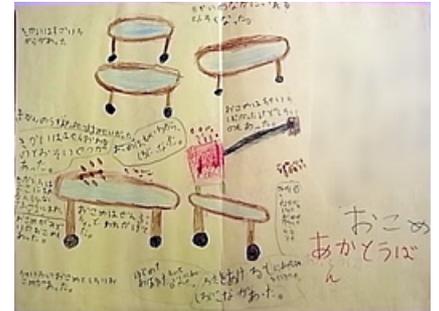
✿ 3.きいろグループ

「おこめはかぞえるのにむちゅうになりました。
おこめは6588だった。かぞえるのにつかれました」



✿ 4.あかグループ

「(精米器の)きかいのうずまきはたつまきみたいだった」
「おこめはちゃいろからしろになった」
「きかいのなかに入れるとしるくなった」
「きかいはすごいちからだった」
「ふたをあけてにおってみるとくさかった」
「ちょっといいにおいやった」



✿ 振り返って…

今年度は農園(園が所有しているもの)に、1坪の田んぼを作り、子どもたちと一緒に米一升の収穫を目指して取り組んできました。5月の籾の選別に始まり、籾蒔き、田植え、稲の世話や観察、稲刈り、脱穀、籾摺り、精米、クッキングで味わうところまで、長期に亘り子どもたちの思いに添い、好奇心に対して納得するまで探求する時間や環境を設ける援助をしてきた。この「手作り図鑑」の中には、子どもたちの感想や気づきや発見がたくさん書き記されている。「米」は「稲」という植物から実るものだと知り、収穫後も様々な行程を経て、初めて食することができることも実感したことで、子どもたちの興味は一層深まった。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」